

手作りのぬくもりを添えて

5/25

町内の小学生全員に手作りマスクが送られました

町内の小学生全員が学校給食協同調理場に勤める調理員の方たちから、手作りのマスクを受け取りました。

色彩豊かな生地で作られたマスクは、子どもたちにも好評で、中川根第一小学校6年生の新智也さんは「貴重なマスクをもらえて本当にうれしい。大切に使いたい」と笑顔で話しました。

マスクを作った鈴木英美調理員は「子どもの感染症予防のためにと思い、小さめのマスクを作りました。ぜひ使って欲しい」と話しました。



手作りのマスクを受けとる児童たち

5/15

5/22

ご支援ありがとうございます

食品用アルコールと次亜塩素水溶液をご寄贈いただきました



5月15日、本町を訪れ支援事業について説明する齋藤理事長（右）

川根ライオンズクラブの筒井光夫会長と島田青年会議所の齋藤直哉理事長ら4名が役場を訪れ、消毒液不足が深刻な町の各保育園とさゆり幼稚園のために消毒液が寄贈されました。

齋藤理事長は「活動自粛は活動停止と同義ではなく、社会の変化に応じた柔軟な対応が必要だと感じています」と話し、島田ライオンズクラブと島田ロータリーズクラブを含めた4団体の協同事業として、実施されました。

消毒液は、島田青年会議所の職員の方が、直接各園を訪問し、配布しました。



マスク1万枚をご寄贈いただきました

株式会社ヨコケンの横田川庄一代表取締役と藤本昌宏取締役課長ら3名が役場を訪れ、マスク10,000枚が寄贈されました。

横田川代表取締役は「大変な時期ではありますが、少しでも力になれば」と話すと、鈴木町長は「マスク不足が深刻な中、本当にありがたい。大切に使用させていただく」と謝意を述べました。

頂いたマスクは、地域の皆さんのために、各自治会に配布しました。



5月22日、横田川代表取締役（右）と藤本取締役課長（中央）が訪町されました

川根高校の魅力化推進のために

6/1

6/2

「総合的な探究の時間」に川根高校魅力化コーディネーターの伊神花織さんが活躍

川根高校の2年生は「総合的な探究の時間」に川根高校の魅力伝えるための校内マップの作り方を学びました。

生徒たちは伊神さんが作成した指令書をもとに、校内の様々な場所を巡り、各質問に答えながらマップ作りの面白さを学びました。

川根留学生の花木ロブさんは「校内にはまだいろいろな魅力があることが分かりました。見る人が理解しやすいマップを作りたい」と話しました。

今回の授業を皮切りに、生徒たちはプロのデザイナーの指導を受けながらマップ完成を目指し、オープンスクールなどで中学生や地域に向けて配布する予定です。



指令書に答えるため 校内を散策する生徒たち（撮影時はマスクを外しています）



グループで話し合う生徒たち

高校生活スタート！3年間を見据えた目標設定

一方で、1年生は「川根高校でどのように成長したいか」をテーマに、伊神さんから助言を受けながら、自分の成長目標を考え、取組計画を立てました。まだ高校生活に慣れていない生徒たちは、自分が中学校で身につけた力と川根高校の校訓である「自省・創造・果敢」の意味を結びつけ、グループで話し合いながら、目標設定に臨んでいました。

4月から寮生活を送る渡邊仁さんは「規則正しい寮生活のおかげで、集中して勉強ができる。設定した目標を達成できるように励みたい」と話しました。

5/29

からだがぽかぽかしてきたよ♪

三ツ星保育園で子どもの日を祝う会が開催

三ツ星保育園で園児の健やかな成長を祝い、邪気をはらうとされるしょうぶ湯（足湯）などを楽しむ「子どもの日を祝う会」が開催されました。

西村奈緒美保育士が「よもぎとショウブはみんなが元気であるように悪いものを追い払うんだよ」と呼びかけると、園児たちは次々に足湯に入り、「いい香りで気持ちが良い」と歓声を上げていました。

足湯に入った後、園児たちは園庭で、こいのぼりの歌を歌ったり、動物のまねをする体操をしたりして元気いっぱい楽しみました。



よもぎとショウブの足湯にご満悦の様子の子園児たち